

十和田市事務事業評価シート

担当課名	総務課
------	-----

【事務事業の種類と位置づけ】

市総合計画 実施計画番号	87	整理番号	2
基本目標	安心・安全を支える「くらし感動・創造都市」		
施策の展開方向	生活安全の確保		
事務事業名	消防水利の整備		
事務の種類	自治事務	根拠法令等	消防組織法、十和田市消防団条例
関連する事務事業			

【人件費の推移(概算)】

		21年度実績	22年度実績	23年度計画
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	15	15	15
	人件費(千円)	540	540	540
正職員以外	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

【事業費の推移】

事業費合計(千円)	21年度実績	22年度実績	23年度計画
	7,700	7,700	7,700
うち一般財源	7,700	7,700	7,700
うち国県支出金			
うち地方債			
うちその他			

【事務事業の概要】

対象 (誰(何)を対象として行うのか)	地域の住民
意図 (対象をどういう状態にしたいか)	消防水利を整備し消防力を高め、地域住民の生命と財産を守る
手段 (どのようなやり方で行うのか)	消火栓を新設し、道路改良工事等で支障となる消火栓の移設及び老朽化した消火栓の交換及び修繕を行う。

【指標】

活動指標 (活動の規模)	活動指標名	新設後の消火栓数				
	計算式等	単位	21年度実績	22年度実績	23年度計画	
	年3基ずつ新設	基	延数 1,083	延数 1,086	延数 1089	
	活動指標名					
	計算式等	単位	21年度実績	22年度実績	23年度計画	
成果指標 (意図をどの程度達成しているか)	成果指標名	消防水利の充足率				
	計算式等	単位	21年度	22年度	23年度	
	新設後の数÷計画数	基	目標値	1,083	1,086	1,089
			実績値	1,083	1,086	
			達成度(%)	100%	100%	
	成果指標名					
	計算式等	単位	21年度	22年度	23年度	
		目標値				
		実績値				
		達成度(%)				

十和田市事務事業評価シート

整理No	2
計画No	87

【担当課による検証】

ポイント		検証	評価	点数	合計	検証の理由
妥当性	市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	存在意義の見直しの余地 0 / 4
	実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2		消防水利の充足率が低いことから、防火水槽及び消火栓の設置に対する市民からの要望が高く、求められている。
有効性	活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	6	成果向上の余地 0 / 6
	成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2		財政課と毎年消火栓を3基ずつ新設することで、協議済みで、順調に整備が進んでいる。
	事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2		
効率性	事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である 実施済	A	2	6	コスト削減の余地 0 / 6
	他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である 実施済	A	2		水道本管整備の時期に併せて、消火栓を設置するように進めている。
	民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である 実施済	A	2		
公平性	受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	受益者負担適正化の余地 0 / 4
	受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2		地元の要望を受け、消防本部と協議し、順次設置しているので受益の隔たりはない。
			現在の適性	20 / 20	改善の余地 0 / 20	

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **20** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **0** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の平成24年度の方向性

現状のまま継続

方向性の理由

防火水槽及び消火栓の設置に対する市民からの要望が高く、整備を求められている。
防火水槽1基新設する費用を比較すると消火栓約8基に相当する費用がかかるため、消火栓整備を進める。

今後の具体的な取組み方策と狙う効果

消火栓を年3基ずつ新設する。また、支障となる消火栓の移設並びに老朽化した消火栓の交換及び修繕を行う。